

## 校長先生の部屋だより

### 哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

合唱祭も終わり、昼休みに生徒が来るようになりました。今日は2年生の女子が3人哲学ルームを訪ねて来ました。

今日はどんなテーマをもってきたの？

A：この前「自学ノート」に書いたことなんですけど、課題があって、それからそれについての直観があって、それからいろいろ考えるんだと思うんです。たとえば（壁に掛けてある石仏の絵を指さして）これが石だというのが直観です。それからいろいろ考えていくんです。

—これ、石ですか。

B：私は仏像だと思いました。

C：私もです。



—だとすると直観にいろいろあることになるね。ある人は「石」、別の人は「仏像」、あるいは「絵」だと言う人もいるだろう。もっといくとこれを見て「美しい」という人もいるに違いない。

A：はじめに「石」があって、それからそれが「仏像」であるとか、「美しい」とかになるんです。

—はじめに「石」という直観がある。それにさらにいろいろ気付いていく。直観とは気づきのこと？

A：ああ、そうか。うーん。でも始めにあるのが「元祖直観」で、それから子どもを産むように考えることでいろいろ出て来るんです。

—「石」しか直観として認めない、ということ？Bさん、Cさんどうする？

A：これをみてはっとした瞬間です。その時には何も考えていない。

—だとすれば「石」という言葉もないはずだよ。私達はふつうこれを見てぱっと「絵」だとか「石仏」だと判断する。どうやらAさんの言っているのはそういうふつうの経験じゃなくて、それ以前の言葉のないあり方を直観と言っているようだ。そうかな。

A：そうです。直観の後はずべて「予想」なんです。

—数学は好き？ひらめきってあるよね。ひらめいた瞬間はまだ言葉になっていない。それを一つ一つ数式にしていく。このひらめきも直観と呼んでいいかな。

A：それは違うと思います。1たす1は2というのは直観ではなくて、すでに予想です。

—これは面白くなってきた。でももう時間みたいだね。また来て下さい。

何かをヒントに考えるのですが、生徒の考えることは面白くて深いです。

